

### 「来て貰えるだけで助かっています」

5歳・女児

病気による障害で寝たきりのため、全てのお世話をお母さんが担当。訪問看護利用前は、慣れない介護で、子どもさんは、「ずーっと泣きどおしだった。」とのこと。身体だけではなく、精神的にも大変だったと思います。町の助成で訪問看護が受けられることを知り、訪問看護を利用。「来てもらえるだけで助かります。」と話される。看護師が、医療や介護法の相談にのることで安心して介護され、また、訪問看護の時間は、自分の時間とすることができ、精神的支援にもつながっていると感じています。(訪問看護師)

### 「看護師さんは先生のごつあって安心する」

80代・女性・夫と二人暮らし(現在独居)

6~7年前に、うつ病を発症し専門病院へ入院。退院後も寒い時期になると「腰が痛い。」「淋しいので歌って欲しい。」等、眉間にシワを寄せて体調不良の訴えが多く、病院の定期外受診も増加しました。2年ほど前から訪問看護を利用したことで、相談相手ができ、表情も明るくなり、薬もきちんと入り、痛みの訴えもなく、病院受診も定期的のみとなりました。本人の状態が落ち着いたため、訪問看護は中止となり、現在は夫が入院中のため、週1回の訪問介護を受けながら、住み慣れた家で一人暮らしをされています。

(地域包括支援センター職員)

### 「一人暮らしで物忘れが進んでいるけれど生まれた家で過ごしたい」

80代・女性・認知症・要介護2・独居

若くに夫を亡くし、3人の子供も独立し、現在は一人暮らし。85歳頃より急速に物忘れがひどくなられたものの、「自分はどうもない、大丈夫。」と介護サービスも利用されない中、地域の関係者で検討し、主治医の協力の下、訪問看護が開始となった。訪問看護師が本人となじみの関係を築きながら、必要なサービスを少しずつ受け入れてもらわれた。途中、夜間電話が増えて家族が引き取る話も出たが、県外に暮らすご家族をはじめ、ケアマネ、サービス事業所、隣人(親戚)、民生委員等関係者がお互いに情報を共有し、連絡を取り合い、本人の気持ちを尊重し、本人の「どこにも行かない。ここが良い。」との気持ちを皆で支えています。独居で一番心配な火災についても、湯沸しをやかんから電気ポットへ、自宅入浴からデイサービスでの入浴へ等、ゆっくり無理強いつつタイミングを見ながら変えました。また、本人は「火は危ない、そばを離れない」という認識があるので、簡単な調理はする等、危険だからといって全部取り上げるのではなく、不十分でも本人ができることを見守りながら支えています。

(介護支援専門員)

### 「何でん食べられるっけん嬉しか」

90歳・女性・認知症

義歯が合わず食事がうまく摂れなくなり、ケアマネさんから訪問歯科を依頼された。ご本人は「両親も80才で死んだから自分もいつ死んでも良い」とのこと。口腔内のケアと義歯の作製・調整等を行うとともに、傾聴による本人の痛みを癒す関わりを行った結果、口の中が快適となり、食事も摂りやすくなり、生きる意欲も出て、今では県外に住むひ孫さんの帰省を心待ちにされています。依頼されたケアマネさんからは、「あんなに劇的に変わるなんて信じられない、訪問歯科を頼んで本当に良かった。」と言われ、ご本人からは、「新しか入れ歯の入って何でん食べられるっけん嬉しか。」「先生方が来られるのが楽しみ。」と感謝されています。(歯科医師)

### 「お母さんお世話になります」

50代・女性・がん・3人暮らし

余命1週間の告知を受け「家で過ごしたい。」との本人の希望で、入院先の病院から往診を依頼され、退院当日から往診と訪問看護が開始となりました。帰宅時に同行した際、声を出すのもやっとな状態の患者様が、「お母さんすみません、お世話になります。」とはっきり挨拶をされ、お姑さんは「あなたが元気になって、私ば看らんでどがんすつと！早よ一元気にならんたい！」と力強く励まされました。御主人は、いつも傍らに居られ、痛みや苦しみなど病状が変わると直ぐに連絡をくださいました。その度に往診や訪問看護で駆けつけて、症状を和らげ、安心していただきました。3日間のお付き合いでしたが、今も抜けるような青空と阿蘇の緑の下での二人の会話を思い出します。家族と一緒に看取りができ、患者様の希望を叶えることができたと感じています。(診療所看護師)

### 「こんな重病人でも家で過ごせているのは、在宅医療のおかげです」

65歳・男性・ALS・要介護5・二人暮らし

夫は、19年前にALS(神経疾患)の診断を受け、15年前から栄養補給を管から、呼吸は機械の助けを借りるようになりました。それでも、私達の「家で過ごしたい」という思いに応え、「訪問診療」を快く引き受けてくださった先生に感謝しています。肺炎を起こし、先生から入院を勧められた時も、寝たきりの夫を病院まで連れて行くリスクを考え「家から動きたくない」と言うと、先生や看護師さんは私たちの思いを尊重し、日に何度も訪問し、肺炎治療をしてくださりました。体を動かさず、声を出せない夫が、医師、歯科医師、看護師、リハビリの方等、多くの方々に支えていただき、住み慣れた家で暮らせています。こんな重病人のいる我が家でも在宅で生活ができていますので、皆さん安心してください。(妻)



## 在宅でご家族の看取りを経験された方々

### 「本人が一番望む形で旅立たせてやれたことに感謝しています」

87歳・女性・心疾患・要介護1

母は、デイサービスにいくだけの体力を失い、気力のみで一人暮らしをしていました。「ショートステイも入院もしたくない。最期まで住み慣れた我が家が良い。」と言う母の訴えに担当のケアマネさんから「訪問看護」を勧められました。体力の限界と死期が近づいている母の不安を主治医の先生との連携の元、看護師さんは、しっかりと受け止めてくださいました。他町に嫁いでいる私が仕事をやめることなく、私の腕の中で、朝方6:00、母が一番望む形で旅立ちをさせてやれた事に、深く感謝しております。今後、高齢化が進む中、納得のいく最期をされる方々へ、医療的サポートを受けながら、在宅での終末も「訪問看護」の力を借りれば可能ですので、まずは担当のケアマネさんに悩みを相談されることをおすすめします。(娘)

### 「父が最後まで家で暮すことができたのは、看護師さんとかかりつけの先生のおかげです」

男性・肺気腫・要介護4

肺気腫で寝込んだ父を母が一人で介護していました。「入院はいや。家にいる。」と頑固な父。このままでは母が倒れてしまうのではないかと心配し、ケアマネさんに相談して、訪問看護の利用を開始しました。いつも明るく、笑顔で接してくれる看護師さん。時には冗談を言いながら父を励ましてくれ、段々と父の表情も明るくなり、母の介護負担も軽くなりました。容態が悪く夜中に電話しても、すぐにかけて適切な処置やアドバイスをもらいました。父が最期まで暮らすことができたのは、訪問看護師さんとかかりつけの先生がいらしたおかげと、感謝しています。本当にありがとうございました。(娘)

### 「初めての介護でも、訪問看護の利用で夫を自宅で看取ることができました」

80歳・男性・要介護4

病院退院後、自宅にて、子供や孫に協力して貰いながら夫の介護をしていました。初めての介護ということもあり、上手いかないことも多々ありました。そんな中、訪問看護を利用することになり、職員の方々に様々なアドバイスをいただきました。週2日の訪問看護でしたが、私たちの気付かない細かい部分への配慮もしていただき、大変助かりました。夫を最期まで自宅で看取ることができたのも、家族や病院の先生、訪問看護師の皆さんのおかげだと思います。本当に感謝しています。(妻)

### 「こんな病気になっても生きていてしあわせ」と言った母の言葉が私達家族への最高のプレゼント

70代・女性・神経疾患・要介護5

母がALSと診断され、私達家族は深い暗闇の中をさまい続け、これからおこる事態急変に怯えていました。それでも人工呼吸器を装着した母を在宅で介護したいと思う気持ちは強く、不安がる父や妹達を説得し、診断から1年後、在宅療養生活に入りました。

母の病気進行はあまりにも早く、その頃は右手指1本がわずかに動く程度でした。人工呼吸器の扱いに不安はありましたが、訪問看護による毎日のケアと緊急時の24時間対応があり、呼吸器装着の母も日常生活に溶け込み、ALSという病気も余り重荷に感じませんでした。母は車椅子での散歩で四季折々の花を楽しみ、訪問入浴では「体が軽くなる。」と喜んでいました。時には泣いたり、ケンカしたり、笑ったり、の在宅療養でしたが、「こんな病気になっても生きていてしあわせ。」と言った母の言葉が私達家族への最高のプレゼントでした。5年間という長いようで短かった日々を安心して送る事ができたのもたくさんの人に支えてもらったお陰だと思っています。そして、母だけではなく私達家族も支えてくださった訪問看護師の皆さんに感謝しています。(娘)